

授業の概要

平成23年度の1年生からは新学習指導要領による学習とされながらも教科書配布が平成24年度と、移行に当たって多くの課題があります。今回の授業では「世界の諸地域」の指導に当たっての課題を探り、「世界の諸地域」の学習の方法を考えていきます。授業にあたっては、資料から読み取ったことを解釈したり、説明したりして根拠を基に説明する力を高めていきたいと考えています。

1 単元 モノカルチャー経済下の人々の生活 ～アフリカ～

2 単元設定の趣旨

学習指導要領解説社会編（平成20年9月）では、「OECD（経済協力開発機構）のPISA調査など各種の調査から、我が国の児童生徒については、例えば、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られる」と結論づけられている。平成22年度佐賀県学習状況調査においても類似の結果が見られる。この課題を踏まえ、社会科改訂の趣旨として「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力等を確実にほぐくむため言語活動の充実」があげられている。言語活動の充実は、基礎・基本が徹底されることや、自己表現力を養うという点で効果が期待できる。地理的分野においては、事象間の関連を追及したり、説明したりするなどの学習を通して、地理的な見方や考え方の基礎を養うことが重視されている。

今回学習するアフリカ州は、世界第2位の面積を持ち、熱帯を挟んでほぼ南北に模式的に気候帯が広がっている。人類発祥の地であり、四大文明の一つであるエジプト文明が栄えた古い歴史を持っている。しかし中世の大航海時代以降は奴隷貿易の中心となり長い間ヨーロッパ諸国の植民地としての歴史も併せ持っている。現在でもヨーロッパ社会とは貿易を中心として経済的に深いつながりがあり、経済的には植民地時代に共生されたモノカルチャー経済とプランテーションによって立ち後れているが、現在では各種のレアメタル資源の開発が先進国を中心として世界中から期待されており、経済の安定に向けた取り組みもなされている。しかしながら貧困や難民が多く、内戦や民族紛争が絶えず、日本を含む先進諸国、新興国の様々な援助を求めている。

本学級の生徒は全体的に活発で明るく、男女問わず話し合い、発表できる雰囲気を持っている。4月からグループ学習を取り入れ、1人1人で考えるのではなく、分からないことがあれば互いに教え合うことが普段の学習で定着している。また、社会科について、いろいろなことを知り、学び、調べることができるから好きと23人が答えている。しかし、論理的に考え、因果関係を導き出すことを苦手とする生徒も多く、習熟度に個人差が見られる。アフリカ州についてのイメージは「暑い」「動物が多い」「砂漠」といったイメージしか無く、生活や文化についてはワールドカップ関連の番組による情報しか持たない。

この単元では生徒にまずアフリカ州へ興味・関心を持って学習できるようにワールドカップに関する新聞などメディアからの資料を活用し、アフリカを身近に感じさせ、知的好奇心を喚起することに心掛けていきたい。次に、グループによる作業的学習を取り入れ、資料を基に思考する活動を中心に行っていきたい。グラフや地図帳の主題図など各種の資料から事実を各自で読み取らせ、読み取ったことを解釈したりグループ内で説明したり、簡潔に書いたりすることによって

根拠を基に説明する力を高めたいと考える。

3 学習課題 なぜ、アフリカの国々は第1次産品に頼っているのだろうか。

4 単元の目標

- (1) アフリカ州について興味・関心を持ち、学習課題に対して意欲的に取り組むことができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) アフリカ州の地域的特色について資料から適切に読み取り、多面的・多角的な視点から追求することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) アフリカ州の地域的特色について資料から適切に読み取り、説明することができる。
(資料活用の技能)
- (4) アフリカ州の自然の特色や歴史的背景、民族と生活、経済の動向などを通して地域的特色を大観することができる
(社会的事象についての知識・理解)

5 指導計画 (全5時間)

時	学習項目	学習内容	評価				主な評価の観点
			関	思	技	知	
1	高原大陸と呼ばれるアフリカ	(1) 変化に富むアフリカの地形 (2) 熱帯と乾燥帯が広いアフリカの気候	◎		○	◎	アフリカの地理的・気候的特色を理解する。
2	変転の激しいアフリカの歴史	(1) 輝かしい古代の歴史 (2) ヨーロッパ諸国によるアフリカ分割と独立後の問題	○	○	◎	○	アフリカの歴史的背景を資料から読み取る。
3	国によって異なる産業や経済の状況	(1) 石油でうるおう国々 (2) 中南アフリカの人々の生活を変えたプランテーション		○	◎	○	アフリカの経済状況とその背景を資料から読み取る。
4	モノカルチャー経済下のガーナ (本時)	(1) 日本とガーナ (2) カカオに頼るガーナ (3) ガーナの主な輸出品		○	◎	○	ガーナを例にモノカルチャー経済について資料から読み取る。
5	課題の多いアフリカと日本との結びつき	(1) 頻繁に発生する干ばつや食糧不足 (2) 繰り返される民族間の対立 (3) 経済を安定させるための取り組み	○	◎		○	今後の日本との結びつきについて考える。

6 本時の目標

- 学習課題について、資料を基に適切に解釈し、考察した結果をワークシートに書き込み、他者に説明することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- グループ学習を通して、学習課題に対する自分の考えを深めることができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- モノカルチャー経済の実態と人々の生活の関係を理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

7 本時の展開

	学習活動	形態	教師の指導・支援	準備
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習課題と学習の流れを確認する 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習内容について振り返る。 ・ 本時の学習課題について確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガーナの写真
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">なぜガーナの人々はカカオ栽培にたよった生活をしているのだろう</div>				
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本とガーナの貿易について比較することで、ガーナの経済状況やそれを支えているモノカルチャー経済の課題について考える。 	G	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本とガーナの主要な貿易品目と輸出入総額を比較することで、ガーナの脆弱な経済状況について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> ・ カカオの栽培にたよるガーナの人々の生活について資料を元に考える。 	G	<ul style="list-style-type: none"> ・ アフリカのカカオ産地の分布を地図帳で確認させ、カカオの木の栽培条件を理解させる。 ・ カカオ農園の規模や人々の生活との関係について資料を基に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チョコレートのパッケージ ・ カカオの写真
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガーナの経済を支えているものについて資料を基に考える。 ・ ガーナの人々の暮らしについて分かったことをまとめる。 	G 個人	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガーナの主な輸出品や貿易相手国を調べ、国の経済が限られた商品に支えられていることを確認させる。 ・ カカオのプランテーションがガーナに持ち込まれた時期や動機について考えさせる。 ・ プリントの形に従ってまとめるよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめを行う。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本や私たちの生活と深いかわりを持つ国であることを確認し、次時への意欲付けとなるよう話を行う。 	

8 本時の評価

- 学習課題について、資料を基に適切に解釈し、考察した結果をワークシートに書き込み、他者に説明することができたか。
(社会的な思考・判断・表現)
- グループ学習を通して、学習課題に対する自分の考えを深めることができたか。
(社会的な思考・判断・表現)
- モノカルチャー経済の実態と人々の生活の関係を理解することができたか。
(社会的事象についての知識・理解)

<モノカルチャー経済下の人々の生活～アフリカ～>

資料P85, 別紙資料3

4. モノカルチャー経済下のガーナ

学習課題

なぜ、アフリカの国々は第1次産品に頼った生活をしているのだろうか。

☆ 語句の確認 ☆

- **カカオ豆**とは…熱帯各地で栽培されるアオギリ科の常緑高木。果実は紡錘形で、中に多数の種子がある。種子を発酵させて乾燥したカカオ豆を、ココア・チョコレートなどの原料にする。
- 貿易**赤字**とは…輸出による収入より輸入による支出が多いこと
- 貿易**黒字**とは…輸出による収入より輸入による支出が少ないこと

1 日本とガーナ

○ ガーナの経済について、別紙資料3を見て、次の表を完成させよう。

項目	ガーナ	日本
主な輸出品		機械類, 自動車, 精密機械
主な輸入品	機械類, 自動車	機械類, 原油, 衣類
一人当たり GNI(ドル)	米ドル	米ドル
総貿易額 (輸入) (億ドル)	億ドル	兆 億ドル
(輸出)	億ドル	兆 億ドル

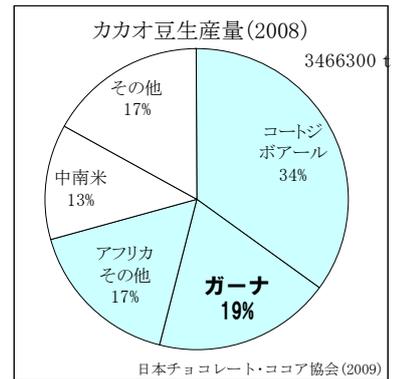
ガーナと日本を比べて思ったことをメモしておきましょう

※GNI：国民総所得
1年間に国民が得たお金

2 カカオにたよるガーナ

(1) 資料集P150①世界の主な農産物の分布から、カカオ豆は主にアフリカのどの地域で生産されているか分かりやすく説明してみよう。

カカオ豆が生産されている地域は主に



(2) 右の「カカオ豆生産量」「日本のカカオ豆輸入量」の2つのグラフを見て、読み取れること(分かること)を下の文に続けて書こう。

①カカオ豆の生産量は、アフリカが全世界の

②ガーナのカカオ豆生産量は、全生産量の

③日本のカカオ豆の輸入は

